

国際化学肥料ニュース（2018年5月）

肥料業界の2018年5月動態

- * モロッコの OCP 社はポーランドの Grupa Azoty 社との間にりん鉱石を Grupa Azoty 社に 2018 年 1 月～2020 年 12 月までの 3 年間供給する契約を締結した。契約金額 1.03 億ドルであるが、各年の供給数量が不明。2017 年ポーランドは約 120 万トンのりん鉱石を輸入した。そのうちモロッコ OCP 社からの輸入量が 67.5 万トン、全体の 56% を占める。

- * インドの 2018～2019 年度肥料補助金予算を通過されてから、インドの DAP 輸入が非常に活発になった。5 月上旬に再び 20 万トンの DAP 輸入契約をした。これにより 4 月以降の DAP 輸入契約数量が約 180 万トンになった。5 月の輸入数量 76 万トン、6 月の輸入数量 100 万トン、第 2 四半期 3 ヶ月だけで 160～200 万トンを輸入する予定で、年間輸入量の 1/3 を超えた。

インドの活発な DAP 購買活動の影響を受け、りん安の国際価格がじわじわ上がっている。5 月上旬現在、インド、ブラジル、アルゼンチン向けの DAP と MAP の CFR 価格はすべて 400 ドル/トンを超えた。6～7 月のりん安価格も高値安定の見通しである。

- * 塩化加里の国際市況が安定している。中国、インドと国際大手加里メーカーとの年度輸入基本契約の交渉がすでに始まって、大手メーカー側が 30～50 ドル/トンの値上げを要求している。中国との交渉は 6 月中、インドとの交渉が 6～7 月に決着する見通しである。

交渉を有利に運ぶため、大手加里メーカーはそろって塩化加里現物の値上げをしている。ブラジル向けの大粒塩化加里は CFR 価格がすでに 310 ドル/トンを超え、320 ドル/トンを目指している。東南アジア向けの塩化加里（粉品）も CFR280～295 ドル/トンに上がっている。

- * 塩化加里の値上げを受け、硫酸加里も値上げの動きがある。EU 最大の硫酸加里メーカーベルギーの Tessenderlo 社は出荷価格を 15～20 ユーロ/トン値上げと発表した。5～6 月の硫酸加里価格が上昇する見通し。

- * 尿素が需要不足のため、市況が弱みに転じた。5 月上旬のアメリカ大粒尿素の FOB 価格が 8～10 ドル/トン下がった。また、先月インド IPL 社の尿素入札で 120 万トンの購買量を確定したが、イラン、中東産尿素が捌ききれず、6 月の見込みでは数 10 万トンの在庫に膨らむ予測である。中国産尿素は価格が高く、輸出の支障となるが、イラン、中東の生産量と輸出量が充分補うことができる。また、アメリカがイラン核合意を破棄

することで、イラン産尿素が安値でインドとトルコにしか輸出されない可能性が高くなる。

5月中旬現在、中東湾岸の大粒尿素のスポット価格がすでに FOB235 ドル/トンに下落し、ある貿易商がスリランカ向けの FOB 価格が 234~236 ドル/トンと設定した。また、タイ向けの尿素では FOB230 ドル/トンに設定されたようである。

一方、エジプトでは Mopco 社はインドとトルコに約 4 万トン大粒尿素を輸出し、FOB 価格が 230~232 ドル/トンである。OCI 社も FOB234~236 ドル/トンでインド向けに 4.5 万トン大粒尿素を輸出した。Abu Qir 社は 2.5 万トン大粒尿素の輸出入札を行い、応札価格が 220~230 ドル/トン帯にとどまった。

従って、6月中東湾岸とエジプト産尿素の FOB 価格が 220 ドル/トンに下落するだろうと市場関係者が見ている。尿素の需要不振は多分 8 月末まで続き、9 月から好転する見込みである。

- * 中国政府の環境検査と原料石炭の高値で 2017 年末から国内の尿素生産不足で、価格が高騰し続けている。夏期の尿素需要を満たすため、中国がロシアから 5 万トン小粒尿素を緊急輸入する。これにより、今年 1~5 月の尿素輸入量が約 10 万トンになる。
- * 5 月下旬、中国はロシアからさらに 5 万トン尿素を追加輸入した。5 月中旬の 5 万トンに加え、5 月だけで 10 万トン尿素を輸入した。輸入港は中国南部の港である。
- * DAP の需要が高まっている。先週 1 週間、アメリカ Mosaic 社が FOB407 ドル/トンで南米に 3.4 万トン、モロッコ OCP 社はパキスタンに CFR430~435 ドル/トンで 5 万トン、サウジアラビア Sabic 社はインドに CFR430~435 ドル/トンで 3 万トンの輸出を決めた。また、中国も 1 船の DAP をパキスタンに輸出する契約を締結した。すべて 6 月の船である。
- * 5 月下旬、尿素の国際市況が幾分改善された。その原因はインドのほか、ブラジルなど南米諸国も積極的に尿素の購入に動いている。5 月末現在、尿素の FOB 価格が月初より 5~15 ドル/トン値上がっている。中東湾岸産大粒尿素が 250 ドル/トン、エジプト産大粒尿素が 253 ドル/トン、ブラジルの CFR 価格も 270 ドル/トンを超えた。
また、インドが 6 月中に尿素の国際入札を予定している噂があり、6~7 月の尿素市場が好況を維持する見通しである。
- * 塩化加里の国際価格が上昇している。東南アジアではマレーシアとインドネシアの塩化加里入札結果が不明であるが、6 月以降の CFR 価格が 282~304 ドル/トン、タイの粒状塩化加里の CFR 価格も 295~310 ドル/トンと 5 月より 5~10 ドル/トンの値上げ

と予測される。また、ブラジルでは7～8月納品の粒状塩化加里価格がCFR315～320ドル/トンと提示される。

- * 5月下旬、りん安の国際市況がさらに上昇している。5月15日行ったバングラデッシュの40万トンDAPと7.5万トン重過石の入札は5月31日開札された結果、最低入札価格が中国産DAPのCFR423.75ドル/トン（中国FOB415ドル/トン）、モロッコ産重過石のFOB320ドル/トンである。また、インドはCFR429～432ドル/トンの価格で再度サウジアラビアと中国から25万トンDAPを購入する。今年中にさらに300万トンの輸入需要がある。

南米ではアメリカ、メキシコとブルガリア産粒状MAP計3船がブラジルに到着し、CFR420～430ドル/トンのようである。アルゼンチンもCFR440ドル/トンの価格帯で多量のりん安を購入した模様。6月もりん安市況の堅調さが続くだろう。

大手各社の営業業績

- * アメリカの加里メーカーIntrepid Potash社は2018年第1四半期の業績を公表した。塩化加里生産量が5.9%増の11.4万トン、販売量が4%減の8.8万トン。ほかに硫酸加里苦土肥料生産量が34%減の4.3万トン、販売量が7万トン。販売価格の上昇で、純利益が前年同期の1370万ドルの赤字から180万ドルの黒字に転換した。
- * ドイツのK+S社が第1四半期の業績を公表した。売上が3.9%増の11.7億ユーロ、EBTDI（利払い・税引き・償却前利益）が12.3%増の2億3680万ユーロ。加里肥料と苦土肥料部門の販売量が6.6%増の194万トン、売上が3%増の4億8870まんユーロ、そのうち塩化加里の海外販売量が24.4%増の102万トン、売上が18%増の2億2460万ユーロ。売上と利益が改善された最大の要因はカナダサスカチュワン州にある昨年完成したBethune加里鉱山の稼働が順調であるうえ、加里肥料の国際市場価格が上昇したことである。
- * ノルウェーのYara社は第1四半期の業績を公表した。アンモニア生産量が13%増、尿素生産量が22%増、カルシウム入り硝安（CN）生産量が12%増、尿素硝安液肥生産量が17%減、化成肥料生産量が1%減である。売上高など収入が6%増の28.6億ドル、EBTDI（利払い・税引き・償却前利益）が4.6%減の3.77億ドル、純利益が42%減の1.16億ドル。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * ロシアのEuroChem社は今年末までにカザフスタンのZhambylりん鉱山と化学肥料工場の第2期開発を正式に決定すると発表した。EuroChem社は2013年からZhambyl

りん鉱山の開発を着手して、2015年からりん鉱石を産出した。現在当該鉱山の年間採掘能力が64万トン、りん安と化成肥料の原料として全量EuroChem社のKaratau工場に供給している。第2期開発はりん鉱石年間採掘量を150万トン、りん安と化成肥料の生産能力を200万トンに引き上げる計画である。

- * ノルウェーYara社とドイツBASF社が合弁でアメリカテキサス州Freeportに建設しているアンモニア工場が竣工し、稼動し始めた。当該工場のアンモニア生産能力は年間75万トン、Yara社が68%、BASF社が32%をそれぞれ取得する。Yara社は化学肥料のほか工業用としても外販するが、BASF社は自社工場のポリアミド-6製造に供する。
- * アフリカのタンザニアからの報道によれば、韓国のFriup社はタンザニアKagera州に1000ヘクタールの土地を購入して、化学肥料工場とコーヒー農園を建設する。化学肥料工場が生産した肥料をコーヒー農園および周辺の農家に提供する予定である。
- * 中東アラブ首長国連邦のアブダビ国営石油会社Adnoc社とモロッコOCP社が合弁で化学肥料生産会社を設立することについて基本合意を達成した。当該合弁企業は2つの工場を建設する予定である。一つはアブダビに建設し、豊富な天然ガス資源を利用して、アンモニア、硫黄、尿素を生産する。もう1つはモロッコに建設し、りん鉱石資源を利用して、DAPなどりん酸肥料と化成肥料を生産する。但し、具体的な計画とスケジュールなどが発表されていない。

その他

- * ブラジル政府の経済保護委員会(CADE)はブラジルVale社がノルウェーYara社にCubatao肥料工場を売却する案件を再審査することを発表した。2017年11月、Yara社は2.55億ドルでVale社所有のCubatao肥料工場を購入する契約をVale社と合意した。CADEが再審査を決定する理由はYara社が工場購入後、従業員をリストラする恐れがあり、無条件でこの案件を許可することができないという。
Cubatao肥料工場は年間アンモニア20万トン、硝安と硝酸塩60万トン、りん酸肥料98万トンの生産能力を有し、正式社員970名、契約社員930名がある。
- * 統計データによれば、中国は中米地域への最大の化学肥料輸出国になったことを判明した。2017年中米地域6カ国の化学肥料輸入金額が7.59億ドル、そのうち中国からの輸入金額が2.13億ドル、約28%である。中国から主に尿素、りん安(MAP、DAP)、硫安を輸入している。中米地域の主な化学肥料輸入元は中国、ロシア、アメリカ、フィンランド、ラトビアの順である。

- * カナダの Nutrien 社は所持しているチリ SQM 社の 6,255 万株式を中国天齊リチウム社に売却することを発表した。売却金額が約 40.7 億ドル。昨年、PotashCorp 社と Agrium 社が合併で Nutrien 社になる際に、各国の独占禁止審査部門の合併を同意する条件の一つは、PotashCorp 社が持つチリ SQM 社とイスラエル ICL 社などの株式を手放すことである。今回の SQM 社の株式売却により、Nutrien 社が持つ SQM 社の株式が約 32% から 8.2% に減少し、天齊リチウム社が SQM 社の 25.9% 株式を持つようになる。

- * 4 月 16～17 日、チュニジア Gafsa 県にある国営チュニジア化工グループ (GCT) の硫酸工場から二酸化硫黄ガスの漏れ事故が発生し、窒息や呼吸困難で従業員や関係者 70 名が入院した。幸い、死亡者がなく、すでに全員退院した。当該工場はりん鉱石からりん酸製造に必要な硫酸を硫黄から作る工場で、労働者の長期間ストライキが終了後、再開された際に事故が発生した。

- * アメリカのセントラルフロリダ大学の研究者が新たなアンモニア合成技術を開発した。パラジウム化合物のナノ粒子を触媒にして、電気化学の方法を利用して常温常圧で窒素と水からアンモニアを合成する。電力のエネルギー効率が 8.2% に達するという。関係論文はイギリスの Nature Communications 誌 (2018 年 5 月 15 日号) に掲載されている。

- * インドの IPL 社と IFFCO 社が共同でヨルダンの JPMC 社から 37% の株式を購入した。購入金額約 128 億ドル。JPMC 社はヨルダン国営企業で、国内りん鉱山の採掘とりん酸肥料の生産事業を独占する。インドはこの株式取得によりヨルダンのりん鉱石、粗りん酸の安定供給を確実にする狙いである。